

## 阪南みらい会議（第2回） 会議要旨

日時：平成22年2月23日（火）  
19:00～21:30  
場所：市役所3階 全員協議会室

---

### 出席者

委員	17名（欠席者4名）
アドバイザー	近畿大学 久教授
事務局	政策推進課5名、パシフィックコンサルタンツ（株）1名

---

### （1）はじめに

#### （会議開催前に事務局から説明）

- ・前回の会議終了後、事務局に対し委員から「公募で応募した人は、団体の経験者が選出されたことを知らなかった。選出する前に、まず公募した人にその旨を諮ってから行うのが筋ではないか」との指摘があった。
- ・阪南みらい会議については、昨年9月、「阪南市新総合計画策定方針」を策定する際、久教授に助言をいただき、学識経験者、各種団体の経験者、公募市民とした。
- ・会議の委員構成については、昨年11月14日・23日に開催した市民学習会において、その旨を説明したが、委員募集の際にはこのことに触れず、市民学習会に参加されていない委員の方に対し説明不足であったことをお詫びする旨の説明があった。

### （2）前回欠席されておりました委員の自己紹介

### （3）今後の日程調整について

#### （主な意見）

- ・今日は全体の流れをどうするかという方針を出したらどうか。（委員から、会議全体の流れを図示した表の私案の配付あり）
- ・3月に4回というのは多いし、2回では少ない気がする。

#### （結果）

- ・久教授と委員の都合を集計したものを基に、3月は、8日（月）・25日（木）・30日（火）午後7時からの3回開催とする。

### （4）会議録（会議要旨）の作成について

#### （主な意見）

- ・議事録は会議録音を、一言一句まとめる必要は無い。ポイントを要約したもので十分である。
- ・議事録作成は、委員によってまとめ方に差があるので、事務局が作成するほうがよい。
- ・事務負担を考えると、事務局にお願いすることは懸念する。議事録をまとめる作業のなかで、会議内容が理解できることもある。

(結果)

- ・事務局が作成する。

(5) 議事進行について

(主な意見)

- ・会議で発言する内容を委員各自が事前に書面として用意しておけば、理解しやすくなるのではないか。
- ・次回の議題が決まっていれば、前もって書面で出すということではできると考えるが、会議のなかで考え意見を出し合うので、それはできないことだと思う。
- ・これまで、このような会議を経験されている方に主導されてしまうと、少し戸惑いを感じる。
- ・このような会議で、発言することに慣れていない方もいれば、全く初めての方もいるなかで、大事にしないといけないことは、委員皆さんの「将来の阪南市のために」という共通の思いだと思う。
- ・委員それぞれの意見は、大事にしていくことを確認した上で、進めていくほうが良い。
- ・委員相互の思いが分からないなかで、まず、それぞれの思いを発言していく会議としてはどうか。
- ・委員相互の理解のため、A4で1枚程度の簡単なプロフィール(自己紹介)シートみたいなものを作り、情報の共有をしてはどうか。
- ・思いを聞くより、先に6月に向けた全体の流れを決めたほうが良いのではないか。
- ・3月は委員それぞれの思いを発言し、それが終わった時点で、グループ分けするかどうか決め、5月はもう一度全体で議論してはどうか。何も話さないで、今後どうするか議論しても仕方がない。
- ・委員の皆さんから良い意見が出て、意見が流れてしまう状況である。先ほどから、良い意見に対し拍手が起きており、何か簡単な合意をとる仕組みを作れないか。
- ・会議を進める上で、毎回司会者だけは決めておかないと、議論が進まない。名簿の順番で2名ずつ司会をするというのはどうか。
- ・「将来の阪南市」というようなテーマを決めて進行するのはどうか。
- ・テーマは多岐に亘るから決めるのは困難である。まず、委員それぞれの思いを発言してはどうか。それで、共通項が出てくれば次回の議題とすればいい。

(結果)

- ・自分の思いを事前に書面にできる人はする。各委員に任せる。
- ・各委員の意見は尊重する。一人一回は発言する。
- ・プロフィール(自己紹介)シートを次回までに郵送するので、次回の会議において事務局に提出し、事務局は人数分コピーして配る。
- ・テーマは決めない。まずは次回以降の何回かの会議において、それぞれの委員の思いを発表する。
- ・会議の進行役は、名簿の順で2名ずつ行う。

~久教授アドバイス~

プロフィール(自己紹介)シートが、これからの議論の何に役立つのと思う方もいると思うが、役に立たなくても、委員の「ひととなり」や性格が、他の委員さんに分かるだけで話してくださる。「ひととなり」の一端を垣間見ることができたなら、それは良いことである。

## (6) 事務局からの資料提供について

### (主な意見)

- ・市の現状がどのようになっているのか、データを提供して欲しい。
- ・市の財政状況等も、委員の皆さんが共通認識のうえ、議論していく必要があると思う。
- ・私たちが地域で暮らしていくなかで、福祉、環境、経済等いろんな分野がある。膨大な資料をいただいても、それぞれ専門性が高くて、読み解くことは難しいと思う。委員が意見を出していくなかでキーワードを括り、そのなかで、ぼんやりとテーマが見えてくると思う。
- ・各種データの請求は、個人的に担当課に請求してもよいし、政策推進課に担当課を案内してもらってもよい。その情報が、会議で必要となれば委員に配付すれば良い。

### (結果)

- ・委員個人が知りたい各種データについては、委員各位で担当課に情報提供依頼をする。

### ～久教授アドバイス～

事務局からのデータ提供については、前回の会議でも意見が出ましたが、それよりも委員皆さんの想いを出していこうという話になって、ペンディング状態になっている。

財政については、国と地方の関係が大きく変わってきている。昔は補助金だったが交付金になり、今後、交付金の出し方も変わっていく可能性がある。そうなったとき、過去を勉強して役立つことと、未来を見越して考えていかなければならないことがあるので、そのあたりの仕分けをして資料を出すということは大変な作業になる。

また、それをいただいて皆さんの夢を語る参考になるのか、効率的なことを考え進行していければと思う。

## (7) 委員の想いについて

### (主な意見)

- ・豊かな自然(山)のある箱作を気に入っている。
- ・阪南市には、アイデンティティーが大事だという確信を持っている。
- ・大阪の南の端で便利が悪い場所だが、海と山の自然があることは売りだと思う。
- ・環境が良いからホテルが生息しており、増えている。自然が回復していると思う。
- ・箱の浦では、ごみや路上駐車の問題があり、高齢化が進んでいるが、子どもが多くいるので人口が伸びていくと思うが、高齢化という問題は抱えている。
- ・近隣に大型店舗ができたせいか、市の商業が衰退しているように思う。
- ・市が発展していく社会、地域とは、若い子どもがいて、働き盛りの人がいて、おじいさんおばあさんがいるという、各年代が平均的にいるまちのことだと思う。
- ・若い世代が、巣立ったときに、市に定着できる職場を作っておく必要がある。
- ・桜やピチピチビーチを活かした地域活性化を進めていくべきである。
- ・商工業のなかでも工業については、阪南ブランド十四匠を含めた地場産品の綿関係の復興が必要であり、特に関空がアジアとのパイプになると思う。この地域で何ができるか考えたい。
- ・病院問題もあるが、何か収益を上げていく事業というのを皆さんで考えながら、今後のまちづくりを考えたい。
- ・川をきれいにすることが、海もきれいになり、ついでには、漁業の復興に繋がると思う。

~久教授アドバイス~

- ・今日の会議は、すごく良かったと思う。それは、会議の進め方、やり方でさえ、皆さん意見が違うわけで、これまで本音で話してこなかったと思う。誰かがこうやりましょうねという方向に進んできたと思う。今回、一番議論になったのは根本の進め方の部分で、走りながら考えようというタイプの人と、全体をスケジューリングしてから進めようというタイプの人、両極端だったわけだが、どちらも簡単に妥協せず、意見を出し合ったことが、すごく良いことだと思う。
- ・一つひとつ確認しながら進めていくというのが非効率に見えるが、本当は大切なことであり、それをするには時間がかかり、イライラするかもしれないが、乗り越えていきませんかというのが、次回以降の私の希望である。
- ・「まあいいか」と考えたり、「ちょっと違うな」ということを、心に閉まっておくのではなく、きちんと発言して納得してから一つひとつ決めていく。
- ・私も、今日は良い経験をさせていただいたので、次回もイライラすることがあるかもしれないが、確認しながら進めていきたいと思う。